



メトロ・ワールド・チャイルド

2019年 最新版

アメリカ

フィリピン

ケニア

インド

南アフリカ

ルーマニア

ハイチ

 METRO
WORLD CHILD



2019年度 最新版

ケニア

食っている人たちに
食料を

国民の21%が空腹のまま床に就き、次の食事がいつになるかもわからない…そんな国では、メトロが支援している子どもたちも食糧不足や栄養失調が生活の一部となっています。

マラキという男の子は、祖母と母親の3人暮らしです。母親が精神を病んでいてお金や食べ物がないので、マラキは墓地へ行って木製の十字架を集め、たきぎとして売っていました。それでもわずかな食べ物を買うのがやっとの金額にしかなりません。このような生活を続けていた2年間、マラキは学校に行くこともできませんでしたが、幸いなことにメトロの給食プログラムを利用できるようになり、今では毎日通学しています。そして、空腹のまま床に就かなければならぬという心配とは無縁の毎日となつたのです。



南アフリカ

人生を変える出会い

メトロが関わっている子どもたちの多くは極貧状態にあります。日々の生活必需品すら手に入れられない現状では、将来の見通しなど立つはずがありません。

アシュリーは日曜学校が大好きで、毎回通ってきます。しかし母親は、ごみを漁って残飯を手に入れ、家族を養っている状態でした。毎週、みことばを聞いて心にたくわえているアシュリーに、感謝なことに、スポンサーとの出会いがありました。そして、スポンサーから届けられる食料品や衣類がアシュリーの人生を変えたのです。いつも自分を祈りに覚えてくれ、また、つらい時でも一緒に乗り越えてくれる人の存在を、アシュリーはよくわかっています。スポンサーと子どもとの間に人生を変える関係が生まれるのを見ることができ、大きな感謝を覚えています。



“ 毎日出会う餓死寸前の子どもたち…
私の祈りはただ一つです。
「主よ、どうか、この子たちを死なせ
ないでください…お願いです」 ”

インド | いやし主イエス

メトロが支援している子どもたちは、大変貧しく困窮を極めた環境で生きてています。その中にサスピクという男の子がいます。サスピクの家庭はヒンズー教徒で、2人の兄弟と3人の姉妹があり、家計は父親が一人で支えています。父親は年に6ヶ月間農業をしていますが、残りの半年は、必要な設備が使えないため、耕作も灌漑もできない状態です。

ある日、サスピクは水疱瘡にかかりました。その村では、病気というものは女神の怒りを買ったために起こるという迷信があるため、家族はサスピクを呪術師のところに連れて行きました。もっとも、その村には医療施設がなく、かといって遠く離れた病院に連れて行く経済的な余裕はないという事情もありました。しかし呪術師の処置を受け、病気はよくなるどころか、さらに悪化してしまいました。

苦しむサスピクを少しでも安心させてやりたいと思い、家族はサスピクをメトロの日曜学校に連れてきて祈ってくれるよう求めました。そして数日後。サスピクは完全に癒されたのです！この奇跡的な快復を見て、サスピク一家はイエス様こそが唯一の神であり、私たちを癒してくださいの方だと信じるようになりました。

今では、サスピクは毎週メトロの日曜学校に通い、家族もますますイエス様を知るようになっています。神を讃美ましょう！



フィリピン

祈りの力

“

イエスの愛は
クリスマスで
終わりでは
ありません

”



メトロに通う11歳のリアンは、自ら神様の恵みを体験した子です。教会学校に真面目に通い続けているリアンが去年祈り求めたのは、メトロのキャンプに行くことでした。そして、思いやり溢れるスポンサーのお陰でリアンは、キャンプに参加できた上に、神様が自分の祈りに応えてくださるという確固たる信仰を築くことができたのでした。

キャンプから帰ったリアンは、今度は誕生日の贈り物について祈り始めました。食料品セットがあれば、家族全員が本当に助かるのです。母親にも「贈り物がもらえるからね」と伝えました…だって、祈っているのですから。そして何もないまま誕生日が過ぎました。しかし「神様は必ず応えてくださる」という信仰は揺るがず、その思いを撤回する気もありませんでした。疑うことなく待ち続けたのです。

ある日、信じたとおり、祈り続けた贈り物がリアンのもとに届きました。決して高価なものとは言えませんが、リアンと母親にとっては祈りの答えだったのです。この出来事を通じて、リアンも母親も、神様は単に祈りを聞かれるだけではなく、必ず応えてくださるという確信を得ました。受け取った食料品セットはリアン親子にとって、イエス様と共に歩む信仰の道において大事な一要素となりました。そして今、リアンも母親も、家族そろって祈り続けていこうと決心しています。だって、神様は明確に祈りに応えてくださるのですから!

あなたがたが信じて祈り求めるものなら、何でも与えられます。(マタイ21章22節)

ルーマニア

「足を温めよう」プロジェクト

恒例の「足を温めよう」プロジェクトは、もっとも胸躍る活動のひとつです。気温が氷点下をはるかに下回る冬の一番寒い日でも、ルーマニアのシギショアラ周辺の村々では、外で遊んでいる子どもたちをよく見かけます。しかし、身に着けているのは薄手のセーターや破れた靴がせいぜいです。この子たちの家庭は極貧生活を送っており、衣服や日々の食事さえ贅沢品なのです。

私たちは昨年も、福音を伝えるだけでなく、防寒具を最も必要としている子どもやその家族に5,000足のブーツと4トンにも及ぶ手編みの靴下やスカーフなどの防寒グッズを贈ることができたことを嬉しく思います。

イエス様の手足となって、子どもたちを靈的にも物理的にも満たす働きができていることに感謝しています。



アメリカ

サマー
キャンプ&
日曜学校

ブルックリンのブッシュウッドは、1980年にビル師がスラム街の子どもたちに手を差し伸べようとやってきた場所です。先も見えないまま、それまでの自分もすべて捨てて…そこからすべてが始まりました。それから39年が過ぎましたが、その働きは今なお、子どもたちとその家族を救うために全身全霊で推し進められています。三泊四日のキャンプ、日曜学校…イエスの真理、そして彼ら自身に対する無条件の愛。すべての子どもたちがこの真実を知る機会を得るために、力を尽くしています。

メトロの日曜学校に来ている子どもたちの多くが、学校でいじめを経験しています。6歳のプリシラもその一人です。プリシラは、母親のトリシアに毎週、日曜学校に行かせてほしいとお願いしていました。トリシアは、娘に付き添って日曜学校に足を運ぶうち、日曜学校での学びが娘の傷ついた心にストレートに響くことを知りました。この母子が欠かさず日曜学校に通っていたお陰で、メトロスタッフが家族全員のために祈ることができた上に、プリシラは自ら、自分に対するイエスの愛は決して変わることがなく、イエスに永遠の希望を置くことができるという確信を得ることができたのです!

変化を起こそう 一人ずつ、一人ずつ。

ありがとうございます!

人生を変える。社会を変える。

空腹、貧困、搾取…そんな困難に直面している子どもたちに、あなたのご支援は不变の希望と力を与えてくれます。愛と祈りのこもった贈り物や経済的支援のお陰で子どもたちは大きな変化を遂げ、さらには地域社会全体を変えることにもつながるのです。一つの贈り物が、子どもの将来を完全に変えてしまう働きをすることもあるのです。

私たちは神様から任された財産の良き管理者となれるよう努め、心を込めて子どもと家族と地域社会に貢献しています。

この意義ある働きを共に担ってくださることに感謝します。

あなたのご支援が変化をもたらします!

メトロ・ワールド・チャイルド

日本事務所

お問い合わせ・ご連絡先

TEL 03-3561-0174

Email: metrojapan@mission.or.jp

東京都中央区銀座4-5-1教文館6F

